

映画「37 セカンズ」



ベルリン映画祭史上初の2冠！世界中が熱狂した才能と感性にハリウッドから
オファー殺到！2020年を代表する傑作が日本にいよいよ上陸。

映画「37 Seconds」とは

本作は2016年、世界のインディーズ作家の登竜門である「サンダンス映画祭」とNHKが主宰する脚本ワークショップで日本代表作品に選ばれ、映画化へ動き出した。そして2019年3月、世界三大映画祭のひとつ「第69回ベルリン国際映画祭」パノラマ部門でワールドプレミア上映され、観客が熱狂。「パノラマ観客賞」と「国際アートシネマ連盟(CICAE)賞」を映画祭史上初のW受賞という快挙を遂げる。さらに同年4月には第18回トライベッカ映画祭 Viewpoints 部門(米ニューヨーク)で北米プレミアされ、9月には第44回トロント国際映画祭でも大きな話題を集めた。



佳山 明さんからの一言

簡単だったことは障害者というリアリティ

「この映画が障害者とか、健常者とか障害とかそんなものを本当の意味でなくしていく、変わっていく、チェンジしていく、大きなものになればいいな、なって欲しいなという思いでやらせて頂きました。いろんな意味で必死でしたが、本当に暖かいみなさんに支えて頂いてここまで来ることができました。この作品づくりを通して、自分自身を見つめ、改めて様々なことを考えました。私はこの映画を機に、新しい事にどんどんチャレンジしていきたいです。チャレンジ精神を忘れないでいたいです。この映画が誰かの光となり、愛して頂けたらうれしいです。」

メガホンを取ったのは、18歳で単身留学し、ジョージ・ルーカス、ロバート・ゼメキス、ロン・ハワードら映画監督を輩出した南カリフォルニア大学で学び、短編『Tsuyako』(11)、『A Better Tomorrow』(13)が世界で注目を集めた新鋭の監督・HIKARI。これが長編映画、初挑戦となるが、本作は早くもハリウッドの目に止まり、監督にオファーが殺到。

マイケル・マンが総監督を務めるテレビシリーズの数話分の監督も決定し、ユニバーサル・ピクチャーズ他、次々と映画の大型プロジェクトが動き出している。

「私は私でよかった」 ひとりの女性の人生が大きく羽ばたく、 その瞬間に心が震える。

23歳の主人公・貴田(たかだ)ユマ。漫画家志望だが、今はゴーストライターで漫画は全て親友が描いたことになっている。漫画家として独立するためにアダルト漫画を描き、訪問した編集部では、「作家に性経験がないのにはいい作品は作れない」と一蹴されてしまう。両親は小さい時に離婚し、一緒に暮らす母親はユマの世話をすることが生きがい。なぜか息苦しい毎日。生まれてくる時、息をしていなかった37秒間—そのわずかな時間で身体に障害を抱えてしまったユマ。

もし、もう少し早く生まれていたら。もし、1秒でも早く呼吸ができていたら・・・人生は180度違うものになっていただろう。しかし物語は想像を超え、常識と国境をも超えて、ひとりの女性として、人間として、ユマの人生は大きく様変わりするのだった。

主人公(貴田 ユマ) 佳山 明 MEI KAYAMA

1994年10月14日生まれ、大阪府出身。生まれた時に、脳性麻痺となる。日本福祉大学・社会福祉学部を卒業し、社会福祉士の資格を取得している。本作品において、身体に障害を持つ女性たちを日本全国で一般公募し、約100名の応募者の中からHIKARI監督に見出され主役に抜擢。本作が演技初挑戦となる。



東京郊外に暮らす、23歳の貴田（たかだ）ユマ（佳山明）は、シングルマザーの恭子（神野三鈴）と二人で暮らしている。恭子は身体に障害を抱えるユマを、過剰に面倒を看ることがあって、ユマには少し疎ましくもある。

ユマは、親友で、少女コミックの漫画家のSAYAKA（萩原みのり）のゴーストライターをしているが、それは二人だけの秘密だった。アイドル並の容姿を持つSAYAKAはサイン会でも人気者だ。そんな姿を見て、ユマは羨ましく思うのだった。自分の名前で、大好きな漫画を描きたい。SAYAKAの担当編集者（宇野祥平）にも、原稿を見せるが、「メチャクチャ素晴らしい作品ですが、SAYAKA先生の作品に似過ぎちゃいますかね」と一蹴されてしまう。そんな時に目にしたのは、公園の片隅に捨てられたアダルトコミック誌。ユマは編集部に電話すると、「原稿を持ってきて」との返事をもらう。

ユマは、未来を舞台にしたヒロインが優秀な遺伝子を求めて、男性と交わるSFを書き上げた。出版社で対応してくれたのは編集長の藤本（板谷由夏）。パラパラとページをめくりながら、「作品はいいけど、リアルさに欠けるんだよね。作家に経験がないのに、いい作品は作れないのよ。妄想だけで書いたエロ漫画なんて面白くないでしょ」と言うのだった。

漫画を完成させようとするユマ。自分で経験しなければ描けないその思いは自我と自立の第一歩となる。やがて、ネオン煌めく歓楽街で出会った電動車いすを自在に操る障害者のクマ（熊篠慶彦）、障害者を中心にサービスを行うデリヘル嬢の舞（渡辺真起子）、介護福祉士・俊哉（大東駿介）との出会いが新たな世界の扉を開いていく。そしてユマはある事実を知るのだった。



大東駿介さん演じる介護福祉士・俊哉のモデルとなった辻本敏也さんからのメッセージ

「看護のチカラ」をお読みの皆さま、こんにちは！はじめまして、介護福祉士の辻本敏也と申します。この本を手にとられる皆さんは看護師さんが多いとうかがっています！この映画は、自分がしたいと思う仕事を、今の経験不足のあなたでは無理でしょと他人に指摘され、じゃあ経験するために一步踏み出そうと思ったら親に立ちはだかれ、なかなか思うようにコトが進まなくて悩める女の子が、それでもいろんな人に出会うことで少しずつ変化をしていく姿を見守る映画です。今頑張っている人も、これから頑張る人も、勇気づけられる作品です！是非ご覧ください！

37
Seconds
A FILM BY MIKAKI
サーティセブンスカンズ

37seconds.jp

2020年2月7日（金）新宿ピカデリー他 全国ロードショー

